

逗子の景観まちづくり

瓦版 第七十六号



二〇二二年七月十五日 次号は十一月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

『逗子の海に育てられ』

私は今から四十年ほど前（私が小学校低学年）から逗子海岸沿いの大きな黒松が囲む庭のあるマンションに住んでいます。

この庭からは砂浜は見えず、黒松の幹越しに逗子湾の海面を広く見る事が出来ます。この景色が子供の頃から大好きです。

子供の頃は貝殻を拾ったり、釣りをしたり、波打ち際に自分なりに大きな城壁を作って波と勝負してみたり、どれだけ大きな砂団子を作れるか友と競ってみたり、楽しい思い出ばかりです。

多感な青春期には、嫌な事や悩み事があると必ず、庭に座り広い水面を眺めつつ、海に比べたら自分は小さい存在だなと考え、何となく気持ちに戻るのが常でした。今も時々黒松に囲まれた庭から海を見て心を落ち着かせています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushijg.jp

私は海洋関係の大学に進み、海底の地形および地質の勉強をして、現在は海洋調査の仕事をしています。日本各地、たまに世界の海で仕事をしています。仕事でどこの海に浮いていても、心の中には穏やかな逗子の海が広がっています。私の精神安定剤かもしれませんね。

この文章を書きつつ、この景色が私を育ててくれたんだなどあらためて思い、逗子の海に、そして庭の黒松に感謝しています。

いつまでも黒松で囲まれた庭から逗子の海を見ながら暮らしたいな、と考えつつこの景色が今後も多くの人の心を癒し続けられるように、自分なりにこの景色を守る手伝いをしていければと思います。

文：鬼頭 毅

絵：鬼頭 南



**表彰
条例部門①**

返子脳神経外科クリニック

返子1丁目



複数の広告物の中でデザイン調整をされており、まちなみに開かれたオープンな表情を持ちながら、建築物と調和したシンプルな形で計画されています。

**表彰
応募部門①**

建築物（個人宅）と外構

桜山5丁目



敷地形状を活かした多様で豊富な沿道緑化が街並みを彩り、まちなみデザインの模範といえる素敵な外構です。テラス下の納戸に自転車などを収納でき、家回りがすっきりする工夫もされています。

**表彰
応募部門②**

建築物（共同住宅）と外構

新宿1丁目



返子海岸に面したマンション。市の景観条例等の手続きを経て建築された共同住宅です。市道側・国道134号線側共に緑化スペースを設けており、また、建築物のデザイン性も高く、海沿いの共同住宅の模範例です。

**表彰
応募部門③**

共同住宅のクロマツの並木

新宿2丁目



適切な維持管理のもと、市内で数少なくなってしまった貴重なクロマツの並木です。防風林の役割だけではなく視覚的に緑の潤いをもたらしており、海浜の保養別荘地としての歴史的景観を継承する重要な並木です。



返子の庚申塔を巡って

文・イラスト：田中 慶美

返子に越して、はじめて出会った庚申塔。桜山の田越明神社内に再度訪れる。庚申塔6基、石仏2基が並ぶ心落ち着く場所には、右から5番目の1681年の古い塔から6番目の1921年の240年間が同時に拝める。不思議でもあり壮大なるロマンも感じる。

240年間の時代により3猿の向き、場所、邪鬼の有無や日月の表現の微妙な違いが楽しい。どれも青面金剛しょうめんこんごうの顔は鼻筋が通っていて凛々しく力強さを表現している。鎌倉彫刻の影響を大きく継承している。

苦しい生活の中での願いが強かったのは当然であろうが、3猿の様々でユーモラスな表現にも微笑ましく思う。

庚申塔80数基の現存。そのうち3猿が61基彫刻もされている返子市にあらためて歴史の深さを感じる。

